

- 月17-18日 沖縄県)
57. Dupuytren拘縮のMRI所見—組織学的所見との比較検討—
辻井雅也、飯田 竜、大角秀彦、平田 仁、湊藤啓広
第57回日本手外科学会学術集会（平成26年4月17-18日 沖縄県）
58. 組織レニン-アンジオテンシン系の椎間板障害への関与—ヒト椎間板組織を用いた免疫組織学的解析—
藤原達彦、明田浩司、近藤哲士、村田耕一郎、竹上徳彦、森本 亮、倉田竜也、榊原紀彦、笠井裕一、湊藤啓広
第43回日本脊椎脊髄病学会学術集会（平成26年4月17-19日 京都府）
59. 多血小板血漿を用いた椎間板内治療の開発—組織修復を目的とした腰椎治療—
明田浩司、村田耕一郎、今西隆夫、舛田浩一、Won Bae、竹上徳彦、榊原紀彦、笠井裕一、湊藤啓広
第43回日本脊椎脊髄病学会学術集会（平成26年4月17-19日 京都府）
60. 腰椎虚血が椎間板内基質代謝に与える影響—低酸素・糖代謝関連因子による免疫組織学的検討—
村田耕一郎、明田浩司、竹上徳彦、今西隆夫、湊藤啓広
第43回日本脊椎脊髄病学会学術集会（平成26年4月17-19日 京都府）
61. 椎体骨折と隣接椎間板の組織変性と関連性
竹上徳彦、明田浩司、村田耕一郎、湊藤啓広
第43回日本脊椎脊髄病学会学術集会（平成26年4月17-19日 京都府）
62. 脊椎椎体骨折による椎体変形の進行様式—地域住民追跡コホート調査—
明田浩司、加藤俊宏、竹上徳彦、村田耕一郎、湊藤啓広
第43回日本脊椎脊髄病学会学術集会（平成26年4月17-19日 京都府）
63. メタルオンメタル人工股関節置換術後に発生する金属関連合併症の組織学的・免疫組織化学的検討
長谷川正裕、若林弘樹、湊藤啓広
第58回日本リウマチ学会総会・学術集会（平成26年4月24-26日 東京都）
64. 生物学的製剤naive関節リウマチ患者におけるTNF阻害剤とトシリズマブの治療効果
若林弘樹、西岡洋右、長谷川正裕、西岡久寿樹、湊藤啓広
第58回日本リウマチ学会総会・学術集会（平成26年4月24-26日 東京都）
65. 人工関節置換術施行例に対する骨粗鬆症評価に関する全国調査結果—日整会骨粗鬆症委員会調査—
湊藤啓広、萩野 浩、加藤義治、遠藤直人、大西五三男、斎藤 充、高田潤一、原田 敦、楊 鴻生、木村友厚
第87回日本整形外科学会学術総会（平成26年5月22-25日 神戸市）
66. 肩腱板変性断裂の断裂範囲に伴った周囲滑膜におけるADAMTS5とmiR-140-5p,-3pの発現
飯野隆大、辻井雅也、若林 徹、國分直樹、横山弘和、長谷川正裕、湊藤啓広
第87回日本整形外科学会学術総会（平成26年5月22-25日 神戸市）
67. Dupuytren拘縮腱膜の東部におけるosteopontin発現と病態進行への関与
辻井雅也、飯野隆大、里中東彦、長谷川正裕、湊藤啓広
第87回日本整形外科学会学術総会（平成26年5月22-25日 神戸市）
68. 大腿骨近位部骨折の治療状況に関する全国調査結果—日整会骨粗鬆症委員会調査—
萩野 浩、加藤義治、遠藤直人、大西五三男、斎藤 充、湊藤啓広、高田潤一、原田 敦、楊 鴻生、木村友厚
第87回日本整形外科学会学術総会（平成26年5月22-25日 神戸市）

69. 脊椎椎体骨折の追跡コホート調査－椎体変形の進行様式の検討－
明田浩司、加藤俊宏、竹上徳彦、村田耕一郎、西村明展、湊藤啓広
第87回日本整形外科学会学術総会（平成26年5月22-25日 神戸市）
70. 高感度C-reactive proteinの軟部腫瘍における臨床的意義
中村知樹、浅沼邦洋、飯野隆大、松原孝夫、松峯昭彦、湊藤啓広
第87回日本整形外科学会学術総会（平成26年5月22-25日 神戸市）
71. 椎体骨折は隣接する椎間板の組織変性に関与するのか
竹上徳彦、明田浩司、村田耕一郎、榊原紀彦、笠井裕一、湊藤啓広
第87回日本整形外科学会学術総会（平成26年5月22-25日 神戸市）
72. 生体活性機能を有する椎弓根スクリューの開発
明田浩司、村田耕一郎、竹上徳彦、松下富春、山口誠二、小久保正、後藤幹伸、松峯昭彦、内田淳正、湊藤啓広
第87回日本整形外科学会学術総会（平成26年5月22-25日 神戸市）
73. 肘部管症候群における補助治療としての肘関節鏡視下骨棘切除手術
辻井雅也、植村 剛、國分直樹、飯田 竜、湊藤啓広
第87回日本整形外科学会学術総会（平成26年5月22-25日 神戸市）
74. 橈骨遠位端骨折における手根管圧と正中神経障害
里中東彦、辻井雅也、原 隆久、吉田格之進、中西巧也、湊藤啓広
第87回日本整形外科学会学術総会（平成26年5月22-25日 神戸市）
75. メタルオンメタルTHA後のMRIスクリーニングによるpseudotumorの発生頻度・サイズの変化
長谷川正裕、宮本 憲、宮崎晋一、若林弘樹、湊藤啓広
第87回日本整形外科学会学術総会（平成26年5月22-25日 神戸市）
76. ステム長の異なるflat tapered wedgeステムを用いたセメントレスTHAにおける大腿骨骨反応
宮本 憲、長谷川正裕、若林弘樹、宮崎晋一、湊藤啓広
第87回日本整形外科学会学術総会（平成26年5月22-25日 神戸市）
77. 軟部腫瘍における血中typeIV collagen値の検討
浅沼邦洋、松峯昭彦、松原孝夫、中村知樹、浅沼由美子、大井 徹、後藤幹伸、奥野一真、湊藤啓広
第87回日本整形外科学会学術総会（平成26年5月22-25日 神戸市）
78. 後方腰椎椎体間固定術後の深部感染－椎間ゲージ抜去症例の臨床経過－
明田浩司、福島達樹、村田耕一郎、竹上徳彦、加藤 公、湊藤啓広
第37回日本骨・関節感染症学会（平成26年6月21日 東京都）
79. ゆるみのないインプラントの温存を行った感染性人工股関節の治療成績
若林弘樹、長谷川正裕、宮本 憲、宮崎晋一、湊藤啓広
第37回日本骨・関節感染症学会（平成26年6月21日 東京都）
80. 軟部肉腫におけるアクリジンオレンジ療法併用腫瘍内切除の治療成績
松原孝夫、楠崎克之、松峯昭彦、浅沼邦洋、中村知樹、内田淳正、湊藤啓広
第47回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学会学術集会（平成26年7月17-18日 大阪市）
81. 骨肉腫における切開生検後の腫瘍性炎症は、再発、転移、予後を規定する
浅沼邦洋、中村知樹、松峯昭彦、松原孝夫、大井 徹、後藤幹伸、奥野一真、湊藤啓広
第47回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学会学術集会（平成26年7月17-18日 大阪市）

82. 悪性軟部腫瘍に対するパゾパニブの治療成績
松峯昭彦、斎藤佳菜子、中村知樹、浅沼邦洋、松原孝夫、菅原由美子、水野聡朗、奥野一真、湊藤啓広
第47回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学会学術集会（平成26年7月17-18日 大阪市）
83. 骨・軟部肉腫標準的化学療法無効例に対する gemcitabine, docetaxel併用化学療法の治療効果の検討
服部徹也、松原孝夫、松峯昭彦、浅沼邦洋、中村知樹、湊藤啓広
第47回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学会学術集会（平成26年7月17-18日 大阪市）
84. 腫瘍用人工関節再置換術の工夫
松峯昭彦、浅沼邦洋、松原孝夫、中村知樹、奥野一真、湊藤啓広
第47回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学会学術集会（平成26年7月17-18日 大阪市）
85. デスマイド腫瘍に対する外科的および非外科的治療成績
松原孝夫、松峯昭彦、浅沼邦洋、中村知樹、内田淳正、湊藤啓広
第47回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学会学術集会（平成26年7月17-18日 大阪市）
86. 悪性骨・軟部腫瘍肺転移に対してラジオ波焼灼術（RFA）を行った症例の検討
中村知樹、松峯昭彦、山門享一郎、松原孝夫、浅沼邦洋、湊藤啓広
第47回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学会学術集会（平成26年7月17-18日 大阪市）
87. 軟部腫瘍における凝固線溶反応
浅沼邦洋、松峯昭彦、中村知樹、松原孝夫、大井 徹、後藤幹伸、奥野一真、湊藤啓広
第47回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学会学術集会（平成26年7月17-18日 大阪市）
88. 腫瘍広範切除後のリンパ漏に対する治療と予防
松峯昭彦、浅沼邦洋、松原孝夫、中村知樹、奥野一真、湊藤啓広
第47回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学会学術集会（平成26年7月17-18日 大阪市）
89. 小児良性骨腫瘍に対するリン酸カルシウム骨セメントを用いた治療成績
中村知樹、松峯昭彦、松原孝夫、浅沼邦洋、湊藤啓広
第47回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学会学術集会（平成26年7月17-18日 大阪市）
90. 軟部肉腫患者における術前の全身状態が予後に及ぼす影響
奥野一真、中村知樹、松原孝夫、浅沼邦洋、松峯昭彦、湊藤啓広
第47回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学会学術集会（平成26年7月17-18日 大阪市）
91. 急激な臨床経過をたどった延髄転移を来した悪性末梢神経鞘腫瘍の1例
萩 智仁、中村知樹、横地 歩、松原孝夫、浅沼邦洋、松峯昭彦、湊藤啓広
第47回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学会学術集会（平成26年7月17-18日 大阪市）
92. アレンドロネートは骨粗鬆症モデルマウスの痛覚過敏と calcitonin gene related peptideの発現を抑制する
内藤陽平、若林弘樹、中川太郎、湊藤啓広
第32回日本骨代謝学会学術集会（平成26年7月24-26日 大阪市）
93. テリパラチド連日投与において、腰椎BMD増加率に影響を与える因子
新美 墨、河野稔文、西原 淳、河野稔彦、湊藤啓広
第32回日本骨代謝学会学術集会（平成26年7月24-26日 大阪市）
94. 後肢非荷重による骨粗鬆症モデルマウスにおける疼痛関連行動の評価
中川太郎、若林弘樹、内藤陽平、湊藤啓広
第32回日本骨代謝学会学術集会（平成26年7月24-26日 大阪市）
95. ビスホスホネート製剤長期使用が大腿骨骨幹部皮質骨厚の全体的な増加に与える影響
新美 墨、河野稔文、西原 淳、河野稔彦、

- 須藤啓広
第32回日本骨代謝学会学術集会（平成26年7月24-26日 大阪市）
96. DXAによる骨量測定の精度と測定精度に影響を与える因子の検討
新美 壘、河野稔文、西原 淳、河野稔彦、須藤啓広
第32回日本骨代謝学会学術集会（平成26年7月24-26日 大阪市）
97. TKAの評価方法
長谷川正裕、宮崎晋一、須藤啓広
第6回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（平成26年7月24-26日 広島市）
98. イメージフリーナビゲーションを用いたTKAの中間成績
長谷川正裕、宮崎晋一、宮本 憲、若林弘樹、須藤啓広
第6回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（平成26年7月24-26日 広島市）
99. PS型とUC型人工膝関節置換術後の可動域の成績
宮崎晋一、長谷川正裕、宮本 憲、若林弘樹、須藤啓広
第6回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（平成26年7月24-26日 広島市）
100. 軟部腫瘍との鑑別を要した近位脛腓関節に発症した若年性特発性関節炎の1例
若林弘樹、中村知樹、萩 智仁、西村明展、須藤啓広
第24回日本小児リウマチ学会総会学術集会（平成26年10月3-5日 仙台市）
101. Regenerex augmentを用いた人工股関節置換術の治療成績
宮崎晋一、長谷川正裕、宮本 憲、若林弘樹、須藤啓広
第123回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会（平成26年10月3-4日 名古屋市）
102. セメントレスTHAにおけるJ-taperステムの初期固定性の検討
宮本 憲、長谷川正裕、宮崎晋一、若林弘樹、須藤啓広
第123回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会（平成26年10月3-4日 名古屋市）
103. メタルオンメタルTHA後に発症したARMDに対する再置換術
長谷川正裕、宮崎晋一、宮本 憲、若林弘樹、須藤啓広
第123回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会（平成26年10月3-4日 名古屋市）
104. 腰椎椎体骨折後にcamptocormiaを呈したパーキンソン病(PD)患者の治療経験
近藤幹大、明田浩司、榊原紀彦、笠井裕一、須藤啓広
第123回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会（平成26年10月3-4日 名古屋市）
105. 両側の伸筋腱皮下断裂を認めたMadelung変形の1例
横山弘和、辻井雅也、國分直樹、飯田 竜、須藤啓広
第123回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会（平成26年10月3-4日 名古屋市）
106. 三重県内整形外科医における骨粗鬆症治療薬に対する意識調査（第2報）
新谷 健、笠井裕一、榊原紀彦、須藤啓広
第123回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会（平成26年10月3-4日 名古屋市）
107. 原発性悪性骨腫瘍における切開生検後の炎症と、再発、転移、予後との関係
浅沼邦洋、中村知樹、松峯昭彦、松原孝夫、奥野一真、須藤啓広
第123回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会（平成26年10月3-4日 名古屋市）
108. 幼児腎明細胞肉腫の脛骨近位部骨転移に対する治療経験
國分直樹、辻井雅也、横山弘和、松峯昭彦、須藤啓広
第123回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会（平成26年10月3-4日 名古屋市）

109. 大腿骨近位部腫瘍に対する腫瘍用人工骨頭置換術後の患肢機能および脱臼例の検討
柿本拓也、松峯昭彦、中村知樹、松原孝夫、浅沼邦洋、湊藤啓広
第123回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会（平成26年10月3-4日 名古屋市）
110. 大腿骨頸部に発生した良性骨腫瘍の治療
中村知樹、松峯昭彦、松原孝夫、浅沼邦洋、湊藤啓広
第123回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会（平成26年10月3-4日 名古屋市）
111. 側胸部に発生した濾胞樹状細胞肉腫の1例
奥野一真、松峯昭彦、中村知樹、松原孝夫、浅沼邦洋、湊藤啓広
第123回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会（平成26年10月3-4日 名古屋市）
112. 脊椎手術患者における深部静脈血栓症についての検討
今西隆夫、近藤哲士、西村 誠、藤原達彦、塩川靖夫、湊藤啓広
第123回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会（平成26年10月3-4日 名古屋市）
113. 上腕骨遠位端骨折の治療と合併症の検討
飯田 竜、辻井雅也、國分直樹、植村和司、吉川智朗、湊藤啓広
第123回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会（平成26年10月3-4日 名古屋市）
114. メタルオンメタル人工股関節置換術後に発生するARMDの組織学的・免疫組織化学的検討
長谷川正裕、飯野隆大、宮本憲、宮崎晋一、若林弘樹、湊藤啓広
第29回日本整形外科学会基礎学術集会（平成26年10月9-10日 鹿児島市）
115. 摘出したハイリークロスリンクポリエチレンに対するラマン分光分析
三浦良浩、長谷川正裕、Leonardo Puppulin、湊藤啓広、Giuseppe Pezzotti
第29回日本整形外科学会基礎学術集会（平成26年10月9-10日 鹿児島市）
116. 腱板断裂の腱周囲滑膜表層におけるADAMTS5とmiR140sの局在
飯野隆大、辻井雅也、若林徹、國分直樹、横山弘和、長谷川正裕、湊藤啓広
第29回日本整形外科学会基礎学術集会（平成26年10月9-10日 鹿児島市）
117. 後肢非荷重骨粗鬆症モデルを用いた骨量減少における疼痛関連行動の検討およびアレンドロネートの治療効果
中川太郎、若林弘樹、内藤陽平、湊藤啓広
第29回日本整形外科学会基礎学術集会（平成26年10月9-10日 鹿児島市）
118. 骨肉腫におけるcarbonic anhydrase IXの発現と予後の検討
奥野一真、松原孝夫、松峯明彦、浅沼邦洋、中村知樹、大井徹、後藤幹伸、湊藤啓広
第29回日本整形外科学会基礎学術集会（平成26年10月9-10日 鹿児島市）
119. ヒト椎間板組織におけるRANK/RANKL/OPG系の発現
竹上徳彦、明田浩司、村田耕一郎、藤原達彦、倉田竜也、近藤哲士、榊原紀彦、笠井裕一、湊藤啓広
第29回日本整形外科学会基礎学術集会（平成26年10月9-10日 鹿児島市）
120. テネイシンCの関節内投与はマウス変形性関節症モデルでの軟骨変性を抑制する
松井佑梨世、長谷川正裕、飯野隆大、今中(吉田)恭子、吉田利通、湊藤啓広
第29回日本整形外科学会基礎学術集会（平成26年10月9-10日 鹿児島市）
121. 挫滅症候群モデルにおけるedaravone投与の検討
横山弘和、辻井雅也、飯野隆大、國分直樹、湊藤啓広
第29回日本整形外科学会基礎学術集会（平成26年10月9-10日 鹿児島市）
122. 末梢神経再生におけるBMP7およびBMP/Smadシグナルの発現変化と局在の検討

- 國分直樹、辻井雅也、明田浩司、飯野隆大、横山弘和、湊藤啓広
第29回日本整形外科学会基礎学術集会（平成26年10月9-10日 鹿児島市）
123. 好中球リンパ球分画比とC-reactive proteinは軟部肉腫症例における予後予測因子である
中村知樹、松峯昭彦、松原孝夫、淺沼邦洋、湊藤啓広
第29回日本整形外科学会基礎学術集会（平成26年10月9-10日 鹿児島市）
124. Dupuytren拘縮腱膜のMRI像の特徴－組織学的所見との比較検討－
辻井雅也、飯野隆大、飯田竜、國分直樹、横山弘和、中西巧也、里中東彦、湊藤啓広
第29回日本整形外科学会基礎学術集会（平成26年10月9-10日 鹿児島市）
125. 骨肉腫に対するCucurbitacin I の有効性
大井 徹、淺沼邦洋、松峯昭彦、松原孝夫、中村知樹、後藤幹伸、奥野一真、湊藤啓広
第29回日本整形外科学会基礎学術集会（平成26年10月9-10日 鹿児島市）
126. ラット椎間板におけるRANK/RANKL/OPG系の発現とその意義
竹上徳彦、明田浩司、村田耕一郎、榊原紀彦、笠井裕一、湊藤啓広
第29回日本整形外科学会基礎学術集会（平成26年10月9-10日 鹿児島市）
127. 高感度C-reactive proteinは5cm以下の軟部腫瘍の良悪性診断に有用か
中村知樹、松峯昭彦、飯野隆大、松原孝夫、淺沼邦洋、湊藤啓広
第29回日本整形外科学会基礎学術集会（平成26年10月9-10日 鹿児島市）
128. 外反母趾が運動機能に与える影響 －旧宮川村検診より－
西村明展、松峯昭彦、長谷川正裕、若林弘樹、榊原紀彦、宮本 憲、明田浩司、淺沼邦洋、辻井雅也、宮崎晋一、中村知樹、加藤公、湊藤啓広
第29回日本整形外科学会基礎学術集会（平成26年10月9-10日 鹿児島市）
- 第29回日本整形外科学会基礎学術集会（平成26年10月9-10日 鹿児島市）
129. 新鮮椎体骨折に伴う痛みと骨折椎体の可動性について
新美 壘、河野稔文、西原 淳、河野稔彦、湊藤啓広
第16回日本骨粗鬆学会（平成26年10月23-25日 東京）
130. テリパラチド24ヵ月連日皮下投与の治療成績
新美 壘、河野稔文、西原 淳、河野稔彦、湊藤啓広
第16回日本骨粗鬆学会（平成26年10月23-25日 東京）
131. ARMDにおける金属アレルギーの関与
長谷川正裕、宮崎晋一、宮本 憲、若林弘樹、湊藤啓広
第41回日本股関節学会学術集会（平成26年10月31日-11月1日 東京都）
132. インプラント維持を試みた感染性人工股関節の治療成績
若林弘樹、長谷川正裕、宮本 憲、宮崎晋一、湊藤啓広
第41回日本股関節学会学術集会（平成26年10月31日-11月1日 東京都）
133. セメントレスTHA術後にステム頸部折損を生じた1例
宮本 憲、長谷川正裕、若林弘樹、宮崎晋一、湊藤啓広
第41回日本股関節学会学術集会（平成26年10月31日-11月1日 東京都）
134. ビタミンE浸漬Highly cross-linked polyethyleneの摩耗の検討
宮崎晋一、長谷川正裕、宮本 憲、若林弘樹、湊藤啓広
第41回日本股関節学会学術集会（平成26年10月31日-11月1日 東京都）
135. 片側高位脱臼股における変形性膝関節症の検討
鈴木慶亮、長谷川正裕、海野宏至、宮崎晋一、

- 宮本 憲、若林弘樹、湊藤啓広
第41回日本股関節学会学術集会（平成26年10月31日-11月1日 東京都）
136. 人工股関節置換術後の疼痛におけるトラマドール塩酸塩の効果
海野宏至、長谷川正裕、宮崎晋一、宮本 憲、鈴木慶亮、若林弘樹、湊藤啓広
第41回日本股関節学会学術集会（平成26年10月31日-11月1日 東京都）
137. 梨状筋温存がTHA後早期の股関節周囲筋力に及ぼす影響
細江拓也、直江祐樹、南端翔多、長谷川正裕、湊藤啓広
第41回日本股関節学会学術集会（平成26年10月31日-11月1日 東京都）
138. 人工股関節全置換術における梨状筋温存がTUGに与える影響
直江祐樹、南端翔多、細江拓也、長谷川正裕、湊藤啓広
第41回日本股関節学会学術集会（平成26年10月31日-11月1日 東京都）
139. 腫瘍用人工骨頭置換術の術後筋力と歩行機能
南端翔多、直江祐樹、湊藤啓広
第41回日本股関節学会学術集会（平成26年10月31日-11月1日 東京都）
140. 変形性関節症患者における骨粗鬆症頻度
宮崎晋一、宮本 憲、若林弘樹、長谷川正裕、湊藤啓広
第42回日本関節病学会（平成26年11月6-7日 東京都）
141. 変形性股関節症と骨粗鬆症
湊藤啓広、宮崎晋一、長谷川正裕、若林弘樹、宮本 憲
第42回日本関節病学会（平成26年11月6-7日 東京都）
142. 両側高位脱臼股における変形性膝関節症の検討
鈴木慶亮、長谷川正裕、海野宏至、宮崎晋一、宮本 憲、若林弘樹、湊藤啓広
第42回日本関節病学会（平成26年11月6-7日 東京都）
143. 26mm zirconia骨頭を用いたTHAにおけるhighly cross-linked polyethylene摩耗の長期成績
宮崎晋一、長谷川正裕、宮本 憲、若林弘樹、湊藤啓広
第42回日本関節病学会（平成26年11月6-7日 東京都）
144. フルポーラスロングシステムを用いた人工股関節再置換術の術後平均10年の成績
長谷川正裕、宮崎晋一、宮本 憲、海野宏至、鈴木慶亮、若林弘樹、湊藤啓広
第42回日本関節病学会（平成26年11月6-7日 東京都）
145. 抗リウマチ薬の併用で治療効果が得られたアバタセプトへの切替え患者の1例
若林弘樹、長谷川正裕、西岡洋右、西岡久寿樹、湊藤啓広
第42回日本関節病学会（平成26年11月6-7日 東京都）
146. 人工膝関節置換術後の疼痛におけるトラマドール塩酸塩の効果
海野宏至、長谷川正裕、宮崎晋一、宮本 憲、鈴木慶亮、若林弘樹、湊藤啓広
第42回日本関節病学会（平成26年11月6-7日 東京都）
147. 母指CM関節症に対する関節鏡視下手術—Interposition arthroplastyから靭帯形成術まで—
辻井雅也、飯田 竜、湊藤啓広
第42回日本関節病学会（平成26年11月6-7日 東京都）
148. 外反母趾はロコモティブシンドロームの原因となりうるか？
西村明展、中空繁登、加藤 公、湊藤啓広
第39回日本足の外科学会・学術集会（平成26年11月13-14日 宮崎県）
149. 椎体骨折による隣接椎間板の組織変性への関与
竹上徳彦、明田浩司、村田耕一郎、山田淳一、

- 湊藤啓広
第22回日本腰痛学会（平成26年11月15-16日
千葉市）
150. ラット椎間板におけるRANK/RANKL/OPG系の発現と椎間板変性への関与
竹上徳彦、明田浩司、村田耕一郎、山田淳一、湊藤啓広
第22回日本腰痛学会（平成26年11月15-16日
千葉市）
151. 椎間板性疼痛に対する多血小板血漿を用いた椎間板修復治療
明田浩司、竹上徳彦、山田淳一、舛田浩一、
Won Bae、村田耕一郎、榊原紀彦、湊藤啓広
第22回日本腰痛学会（平成26年11月15-16日
千葉市）
152. 脊椎椎体骨折の追跡コホート調査－椎体変形の進行様式の検討－
山田淳一、明田浩司、竹上徳彦、加藤俊宏、
村田耕一郎、西村明展、加藤 公、湊藤啓広
第22回日本腰痛学会（平成26年11月15-16日
千葉市）
153. 有茎外側広筋皮弁による腹壁再建の経験
飯田 竜、辻井雅也、吉川智朗、國分直樹、
湊藤啓広、永井盛太、松田信介
第41回日本マイクロサージャリー学会学術集
会（平成26年12月4-5日 京都）
154. 関節近傍に発生した悪性軟部腫瘍に対する皮弁術と処理組織による切除後再建の治療成績
辻井雅也、國分直樹、里中東彦、中村知樹、
淺沼邦洋、松峯昭彦、湊藤啓広
第41回日本マイクロサージャリー学会学術集
会（平成26年12月4-5日 京都）
155. 骨軟部腫瘍切除後の骨欠損に対する血管柄付き骨移植術と処理骨を併用した再建術の経験
國分直樹、辻井雅也、中村知樹、淺沼邦洋、
里中東彦、松峯昭彦、湊藤啓広
第41回日本マイクロサージャリー学会学術集
会（平成26年12月4-5日 京都）
156. 上腕骨外顆偽関節部周囲のガングリオンに
肘関節鏡視下手術を行った1例
横山弘和、辻井雅也、大角秀彦、國分直樹、
湊藤啓広
第27回日本肘関節学会学術集会（2015年2月
13-14日 沖縄県）
157. 上腕骨遠位部骨折を生じた閉経後女性の骨代謝・筋力の検討
飯田 竜、辻井雅也、國分直樹、湊藤啓広
第27回日本肘関節学会学術集会（2015年2月
13-14日 沖縄県）
158. MOM人工股関節の摺動面とTrunionの電顕像の比較
山川 徹、湊藤啓広、西本和人、森川丞二
第45回日本人工関節学会（2015年2月27-28日
福岡県）
159. メタルオンメタル人工股関節置換術後に発生したpseudotumorにおける有症状例の特徴
長谷川正裕、宮崎晋一、宮本 憲、若林弘樹、
湊藤啓広
第45回日本人工関節学会（2015年2月27-28日
福岡県）
160. セメントレスTHAにおけるTapered-Wedgeシステムの初期固定様式の検討
宮本 憲、長谷川正裕、宮崎晋一、若林弘樹、
湊藤啓広
第45回日本人工関節学会（2015年2月27-28日
福岡県）
161. KneeAlign2を用いたTKAの精度評価
長谷川正裕、宮崎晋一、宮本 憲、海野宏至、
鈴木慶亮、若林弘樹、湊藤啓広
第45回日本人工関節学会（2015年2月27-28日
福岡県）
162. TKAにおけるトラネキサム酸投与経路法の違いによる術後ドレーン出血量の比較－点滴注vs關注の比較－
西本和人、山川 徹、森川丞二、塚本 正、
伊東直哉、服部徹也、細井 哲、湊藤啓広
第45回日本人工関節学会（2015年2月27-28日
福岡県）

163. 人工骨頭置換術におけるskin retractorの手術創に対する影響

吉田格之進、里中東彦、萩 智仁、中西巧也、原 隆久、長谷川正裕、湊藤啓広

第45回日本人工関節学会（2015年2月27-28日 福岡県）

164. M.B.Tリビジョンシステムの使用経験

森川丞二、山川 徹、西本和人、塚本 正、伊東直也、服部徹也、湊藤啓広

第45回日本人工関節学会（2015年2月27-28日 福岡県）

165. 人工股関節・膝関節置換術後の疼痛におけるトラマドール塩酸塩の効果

海野宏至、長谷川正裕、宮崎晋一、宮本 憲、鈴木慶亮、若林弘樹、湊藤啓広

第45回日本人工関節学会（2015年2月27-28日 福岡県）

166. 摘出したハイリークロスリンクポリエチレンに対するラマン分光分析

三浦良浩、長谷川正裕、Puppulin Leonardo、湊藤啓広、Pezzotti Giuseppe

第45回日本人工関節学会（2015年2月27-28日 福岡県）

167. 大腿骨頸部骨折を生じた高齢骨粗鬆症患者におけるTapered Wedge Typeの人工骨頭置換術の短期成績

吉川智朗、飯田 竜、湊藤啓広

第45回日本人工関節学会（2015年2月27-28日 福岡県）

168. 高位脱臼股における変形性膝関節症と人工膝関節置換術の検討

鈴木慶亮、長谷川正裕、海野宏至、宮崎晋一、宮本 憲、若林弘樹、湊藤啓広

第45回日本人工関節学会（2015年2月27-28日 福岡県）

169. Hybrid fixation techniqueを用いた人工膝関節再置換術の治療成績

宮崎晋一、長谷川正裕、海野宏至、鈴木慶亮、宮本 憲、若林弘樹、湊藤啓広

第45回日本人工関節学会（2015年2月27-28日 福岡県）

170. 85歳以上の超高齢者における人工膝関節置換術の治療成績

若林弘樹、長谷川正裕、宮崎晋一、宮本 憲、西村明展、湊藤啓広

第45回日本人工関節学会（2015年2月27-28日 福岡県）

171. Hip resurfacing後に生じたARMDの1例

小嶽和也、長谷川正裕、海野宏至、鈴木慶亮、宮崎晋一、宮本 憲、若林弘樹、湊藤啓広

第45回日本人工関節学会（2015年2月27-28日 福岡県）

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

膝関節痛・機能と抑うつとの関連

研究分担者 西脇祐司 東邦大学医学部社会医学講座衛生学分野 教授

研究要旨

地域在住高齢者を対象に、変形性膝関節症の健康関連QOLにおける疾患特異的尺度として有用である Western Ontario and McMaster Universities Osteoarthritis Index (WOMAC) を参考に作成された日本語版の機能尺度（以下、膝関節尺度）を用いて膝関節の疼痛と機能の評価を行い、将来の抑うつとの関連を検討した。対象者は、573名（男性260名、女性313名）である。

多変量解析の結果、痛みスコア、機能スコアともに将来の抑うつと関連していた。スコアの1カテゴリー上昇あたりのオッズ比は、痛みで1.5（95%CI:1.0-2.2）、機能で1.9（1.3～2.7）であった。調整した項目は、年齢、性別、教育歴、視機能、聴力ハンディキャップ、婚姻歴、重大疾患の現病・既往歴であった。

A. 研究目的

超高齢社会を迎えた日本において、運動器の機能低下をきたした高齢者が増え続けている。また、運動器の機能向上がうつや認知症の予防に有効ではないかという仮説が注目されている。

本研究では地域在住高齢者を対象に、変形性膝関節症の健康関連QOLにおける疾患特異的尺度として有用である Western Ontario and McMaster Universities Osteoarthritis Index (WOMAC) を参考に作成された日本語版の機能尺度（以下、膝関節尺度）を用いて膝関節の疼痛と機能の評価を行い、将来の抑うつとの関連を検討した。

B. 研究方法

<デザイン>

2.5年間の追跡研究。

<研究対象者>

65歳以上を対象とした倉渕高齢者コホート研究参加者のうち、ベースライン時（2005～06年）の膝関節尺度による疼痛と機能の両スコアが揃

いかつ、抑うつ傾向（Geriatric depression scale (GDS) 5で2点以上）を認めなかった573名（男性260名、女性313名）を対象とした。

対象者を2.5年間追跡し、追跡時のGDS15で6点以上を抑うつ傾向の発生と定義しアウトカムとした。

膝関節尺度は疼痛スコア（5問：左右それぞれ）が5点から25点で、点数が高い程「痛みが強い」ことを示す。本研究では疼痛スコアが高い方の膝で評価した。一方、機能スコア（17問）は17点から85点で、点数が高いほど「機能が悪い」ことを示している。以下に、疼痛スコア、機能スコアに関する設問を示す。

痛みの評価

1. 平地を歩くときにどの程度の痛みを覚えましたか？
2. 階段を昇り降りするときにどの程度の痛みを覚えましたか？
3. 夜、床についているときにどの程度の痛みを覚えましたか？

4. いすに座ったり床に横になっているときにどの程度の痛みを覚えましたか？
5. まっすぐ立っているときにどの程度の痛みを覚えましたか？

機能の評価

1. 階段を降りる。
2. 階段を昇る。
3. 椅子から立ち上がる。
4. 立っている。
5. 床にむかって体をかがめる。
6. 平地を歩く。
7. 乗用車に乗り降りする。
8. 買い物に出かける。
9. 靴下をはく。
10. 寝床から起き上がる。
11. 靴下を脱ぐ。
12. 寝床に横になる。
13. 浴槽に入入りする。
14. いすに座っている。
15. 洋式のトイレで用をたす。
16. 重いものを片付ける。
17. 炊事洗濯など家事をする。

<統計解析>

疼痛と機能のそれぞれのスコアに基づいて対象者を3群に分類し、単変量および多変量解析（ロジスティック回帰分析）により抑うつとの関連を解析した。

関連の強さは、オッズ比および95%信頼区間で示した。

多変量解析により調整した項目は、年齢、性別、教育歴、視機能、聴力ハンディキャップ、婚姻歴、重大疾患の現病・既往歴である。解析にはすべて、STATA ver12を使用した。

(倫理面への配慮)

本研究の実施に当たっては、東邦大学医学部および慶応義塾大学医学部の倫理審査委員会の

承認を得た。また、参加者全員から文書によるICを得た

C. 研究結果

痛みスコア、機能スコアともに将来の抑うつと関連していた（図1）。スコアの1カテゴリー上昇あたりのオッズ比は、痛みで1.5（95%CI:1.0-2.2）、機能で1.9（1.3~2.7）であった。個別の痛み評価項目、機能評価項目のうち、将来の抑うつとの関連が強い（オッズ比が大きい）項目は、痛みについては、「夜、床に横になっているときの痛み」で、オッズ比は2.6（1.4~4.9）であった（表1）。また、機能については、「靴下をはく」のオッズ比が3.7（1.8~7.5）、「乗用車に乗り降りする」は3.4（1.8~6.5）、「靴下を脱ぐ」は3.1（1.5~6.5）、「浴槽に入入りする」は3.1（1.6~6.0）などで、大きなオッズ比を示した（表2）。

D. 考察

膝関節の痛み、機能低下とともに将来の抑うつと関連していた。とくに痛みでは、夜間床に入っても痛いようだ、と、将来の抑うつとの危険性が高まっていた。また、機能については、靴下の着脱といった日常動作や、車や浴室への移動に支障があると抑うつとの危険が高まることが示唆された。こうした情報は、臨床医が外来で、また地域保健担当者が地域での生活場面において聴取可能であり、抑うつとのハイリスクを示す項目として役立つことが可能と考えた。

一方、本研究では、追跡期間中の膝関節への治療状況が把握できておらず、限界の一つである。おそらくベースライン時の痛みが強く機能低下が大きい者ほど治療介入を受けている確率は高く、治療を受けていなければ、もっと大きな関連が観察された可能性がある。

また、痛みと機能とどちらがより将来の抑うつと関連するのかわかりたかったが、両者は相関が高く、したがって同時にモデルに組み込むことができなかった。今後の課題である。

E. 結論

膝関節の痛み、機能低下ともに将来の抑うつと関連していた。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

論文発表

1. 西脇祐司. アンチエイジングのためのスポーツ 高齢者における運動器の健康とそのエビデンス. 日本整形外科スポーツ医学会雑誌. 2014;34 (3) :233-238.

学会発表

1. 西脇祐司. 加齢性運動器疾患の疫学. 第4臓器連関研究シンポジウム. 第701回新潟医学会. 新潟. 2014年9月13日
2. 神谷耕次郎, 西脇祐司. 脊柱姿勢が将来のADL低下に及ぼす影響の検討. 第87回日本整形外科学会学術総会. 神戸. 2014年5月22日.
3. 今井(武田) 富士美, 道川武紘, 中村孝裕, 武林亨, 西脇祐司. 地域在住高齢者の膝関節痛および機能と将来の抑うつ傾向との関連. 第73回日本公衆衛生学会総会. 宇都宮. 2014.11月5日.

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

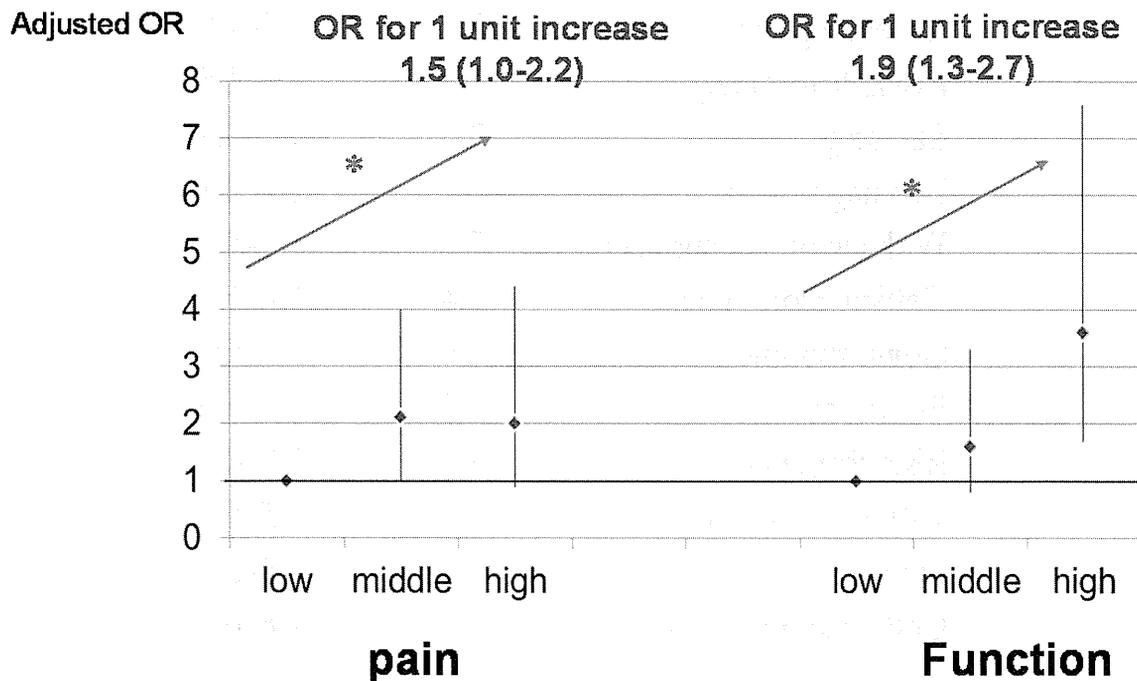


図1 膝関節の痛み・機能と抑うつの関連

表1 痛み評価項目と抑うつの関連

Pain domain	Adjusted OR	95% CI
Walking on flat surface	1.8	1.0-3.2
Going up or down stairs	2.0	1.1-3.6
At night while in bed	2.6	1.4-4.9
Sitting or lying	1.3	0.7-2.6
Standing upright	2.2	1.2-4.1

表2 機能評価項目と抑うつの関連

Function domain	Adjusted OR	95% CI
Descending stairs	2.0	1.1-3.7
Ascending stairs	2.7	1.5-4.8
Rising from sitting	2.4	1.3-4.5
Standing	2.0	1.1-3.8
Bending to floor	2.2	1.2-4.1
Walking on flat surface	2.8	1.5-5.3
Getting in/out of car	3.4	1.8-6.5
Going shopping	2.6	1.4-5.0
Putting on socks	3.7	1.8-7.5
Rising from bed	2.3	1.2-4.4
Taking off socks	3.1	1.5-6.5
Lying in bed	2.8	1.4-5.5
Getting into/out of bath	3.1	1.6-6.0
Sitting	1.2	0.5-3.2
Getting on/off toilet	2.0	0.7-6.0
Heavy domestic duties	2.2	1.2-3.9
Light domestic duties	2.3	1.2-4.6

腰椎MRIで観察される椎間板周囲の変化と腰痛との関連
-The Wakayama Spine Study-

研究分担者 吉田宗人 和歌山県立医科大学整形外科 教授

研究要旨

椎間板変性により腰痛が生じると言われているが、MRI上、椎間板変性はしばしば終板変化やSchmorl結節を伴う。こうした画像所見と腰痛との関連について和歌山県内2地域の一般住民1,011名を対象に調査を行った。腰椎椎間板変性+終板変化+Schmorl結節の併存状態は住民の約20%に認められた。椎間板変性単独では腰痛との有意な関連はないものの、下位腰椎での椎間板変性+終板変化は腰痛との有意な関連を示した。椎間板変性+終板変化にSchmorl結節が加わると、さらに腰痛有病オッズ比が高くなることを明らかにした。

A. 研究目的

椎間板変性により腰痛が生じると言われている。MRI上、椎間板変性はしばしば終板変化やSchmorl結節を伴うが、こうした画像変化の組み合わせと腰痛の関係について確立されたエビデンスはない。われわれは一般住民コホートを用いて、腰椎MRIにおける椎間板変性、終板変化、Schmorl結節の画像変化と腰痛との関係について新しい知見を得たので報告する。本研究の目的は一般住民における腰椎椎間板変性、終板変化、Schmorl結節の単独あるいは組み合わせの有病率を求め、こうした画像変化の併存と腰痛の関連を明らかにすることである。

B. 研究方法

対象は、2008-2009年に和歌山県の2地域で実施した骨・関節疾患予防検診（Research on Osteoarthritis /osteoporosis Against Disability: ROAD study）第1次追跡調査に参加した一般住民1611人のうち、脊椎MRI検診に参加した一般住民1,011名（男性335名、女性676名、平均年齢66.3歳）である。車両搭載型MRI（東芝製Excel Art 1.5T）装

置による全脊椎撮像を行い、腰椎T2強調矢状断像の明瞭であった975名（男性324名、女性651名、平均年齢66.4歳[21-97歳]）について、画像所見と腰痛との関連を調べた。Pfirrmann分類grade4-5を『椎間板変性あり』、頭尾側もしくは片側終板の高信号変化を『終板変化あり』、頭尾側もしくは片側の椎体内へ突出する卵円形の低信号変化を『Schmorl結節あり』と定義した。腰痛は過去1ヶ月以上継続するものを『腰痛あり』と定義した。腰痛の有無を目的変数、椎間板変性、終板変化、Schmorl結節の有無を説明変数、性、年齢、BMIを調整変数とするロジスティック回帰分析を行った。同様に画像変化の併存と腰痛の関連を腰椎全体/椎間高位別に検討した。

（倫理面への配慮）

個人のプライバシーが侵害されないようにデータの処理・管理に十全な対策を施し、同意後もしくは調査開始後でも随時撤回できることを参加者に伝えた。また、本研究は、ROADプロジェクトの一環として、東京大学倫理委員会の承認を得て実施された。

C. 研究結果

腰椎部における各所見の有病率は、椎間板変性のみ30.4%、終板変化のみ0.8%、Schmorl結節のみ1.5%、椎間板変性+終板変化26.6%、椎間板変性+Schmorl結節12.3%、椎間板変性+終板変化+Schmorl結節19.1%であった。椎間板変性単独、終板変性単独、Schmorl結節単独ではいずれも腰痛と有意な関連を示さなかったのに対し、椎間板変性+終板変化+Schmorl結節の3つが併存する場合、腰痛と有意に関連していた (OR:2.17、95%CI:1.2~3.9)。さらに高位別にこの3つが併存する場合の腰痛との関連を見ると、L1/2ではOR:6.00 (95%CI:1.9~26.6)、L4/5では2.56 (同:1.4~4.9)、L5/S1では2.81 (同:1.1~2.3)であった。高位別に椎間板変性+終板変化の2つが併存する場合の腰痛との関連を見ると、L3/4でOR:2.43 (95%CI:1.5~4.0)、L4/5では1.82 (同:1.2~2.8)、L5/S1では1.60 (同:1.1~2.3)と有意な関連を認めた。

D. 考察

本研究により、一般住民において椎間板変性+終板変化+Schmorl結節の併存する例が約20%に認められること、逆に椎間板変性を伴わずに終板変化あるいはSchmorl結節を有することは稀であることが確認された。さらに、椎間板変性単独では腰痛との関連を示さないが、椎間板変性と終板変化の両方が下位腰椎に認められる場合は腰痛と有意に関連すること、そこにSchmorl結節が合併すると、腰痛有病オッズ比がさらに高くなることを明らかにした。腰痛の原因は椎間板周辺以外にも椎間関節、硬膜・神経根、椎間関節、傍脊柱筋など他の脊椎構成要素とも関連することが報告され、さらには心理社会的要因も重要であることが医学的常識となっている。したがって、椎間板周囲の変化によって説明しうる腰痛の割合は全体から見ると僅かなものかもしれない。さらに、本研究はT2強調矢状断像のみの分析であり、終板変化をModic分類で評価

できていないことが制約である。しかし、腰椎MRIで観察される椎間板周囲の変化と腰痛の関連を明らかにしたことは、現在もなお議論の多い椎間板性腰痛を理解する上で有益な知見である。

E. 結論

大規模住民コホートの調査により、腰椎椎間板変性、終板変化、Schmorl結節の単独あるいは組み合わせの有病率を求めた。一般住民の20%が腰椎椎間板変性+終板変化+Schmorl結節の併存を有していた。椎間板変性単独では腰痛との有意な関連はないものの、椎間板変性+終板変化+Schmorl結節が合併すると腰痛有病オッズ比が有意に高くなることを明らかにした。これらのデータは椎間板性腰痛の病態を理解する上で重要な情報を提供する。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

論文発表

1. Nakamura M, Hashizume H, Oka H, Okada M, Takakura R, Hisari A, Yoshida M, Utsunomiya H. Physical Performance Measures Associated With Locomotive Syndrome in Middle-Aged and Older Japanese Women. *J Geriatr Phys Ther.* 2015 Feb 18. [Epub ahead of print]
2. Muraki S, Akune T, En-Yo Y, Yoshida M, Suzuki T, Yoshida H, Ishibashi H, Tokimura F, Yamamoto S, Tanaka S, Nakamura K, Kawaguchi H, Oka H, Yoshimura N. Joint space narrowing, body mass index, and knee pain: the ROAD study (OAC1839R1). *Osteoarthritis Cartilage.* 2015 Jan 30. [Epub ahead of print]
3. Teraguchi M, Yoshimura N, Hashizume H, Muraki S, Yamada H, Oka H, Minamide A, Nakagawa H, Ishimoto Y, Nagata K, Kagotani R, Tanaka S, Kawaguchi H, Nakamura K, Akune T, Yoshida

- M. The association of combination of disc degeneration, endplate signal change, and Schmorl node with low back pain in a large population study: the Wakayama Spine Study. *Spine J.* 2014 Nov 27. [Epub ahead of print]
4. Yoshimura N, Akune T, Fujiwara S, Shimizu Y, Yoshida H, Nishiwaki Y, Sudo A, Omori G, Yoshida M, Shimokata H, Suzuki T, Muraki S, Oka H, Nakamura K. Incidence of disability and its associated factors in Japanese men and women: the Longitudinal Cohorts of Motor System Organ (LOCOMO) study. *J Bone Miner Metab.* 2015 Mar;33(2):186-91.
 5. Nagata K, Yoshimura N, Hashizume H, Muraki S, Ishimoto Y, Yamada H, Takiguchi N, Nakagawa Y, Minamide A, Oka H, Kawaguchi H, Nakamura K, Akune T, Yoshida M. The prevalence of cervical myelopathy among subjects with narrow cervical spinal canal in a population-based magnetic resonance imaging study: the Wakayama Spine Study. *Spine J.* 2014 Dec 1;14(12):2811-7.
 6. Kagotani R, Yoshida M, Muraki S, Oka H, Hashizume H, Yamada H, Enyo Y, Nagata K, Ishimoto Y, Teraguchi M, Tanaka S, Nakamura K, Kawaguchi H, Akune T, Yoshimura N. Prevalence of diffuse idiopathic skeletal hyperostosis (DISH) of the whole spine and its association with lumbar spondylosis and knee osteoarthritis: the ROAD study. *J Bone Miner Metab.* 2015 Mar;33(2):221-9.
 7. Teraguchi M, Yamada H, Yoshida M, Nakayama Y, Kondo T, Ito H, Terada M, Kaneoke Y. Contrast enrichment of spinal cord MR imaging using a ratio of T1-weighted and T2-weighted signals. *J Magn Reson Imaging.* 2014 Nov;40(5):1199-207.
 8. Yoshimura N, Akune T, Fujiwara S, Shimizu Y, Yoshida H, Omori G, Sudo A, Nishiwaki Y, Yoshida M, Shimokata H, Suzuki T, Muraki S, Oka H, Nakamura K. Prevalence of knee pain, lumbar pain and its coexistence in Japanese men and women: The Longitudinal Cohorts of Motor System Organ (LOCOMO) study. *J Bone Miner Metab.* 2014 Sep;32(5):524-32.
 9. 橋爪 洋、吉村典子、寺口真年、吉田宗人. 椎間板変性の疫学-一般住民コホート調査の結果より. *脊椎脊髄ジャーナル.* 2015, 28(1):14-8.
 10. 橋爪 洋、吉村典子、石元優々、長田圭司、阿久根徹、山田 宏、村木重之、岡 敬之、南出晃人、中川幸洋、吉田宗人. 地域住民における頸髄圧迫、腰部脊柱管狭窄の有病率と身体所見の関係 -The Wakayama Spine Study. *Journal of Spine Research.* 2015, 5(9):1271-5.
- 学会発表
1. Hashizume H, Teraguchi M, Yoshimura N, Ishimoto Y, Nagata K, Akune T, Oka H, Muraki S, Yamada H, Yoshida M. Associated factors of intervertebral disc degeneration –Current results from a population-based cohort: The Wakayama Spine Study. *World Forum for Spine Research 2014, May 15-17, 2014, Xian, China*
 2. Hashizume H, Yamada H, Oka H, Minamide A, Nakagawa Y, Nishi H, Iwasaki H, Tsutsui S, Yoshida M. Low Back Pain Intensity in Lumbar Spinal Stenosis Measured by Using the Japanese Orthopaedic Association Score and the Visual Analogue Scale -Distribution, Responsiveness to the Surgery and Correlation Between the Two Measurements. *International Society for the Study of Lumbar Spine Annual Meeting, June 3-7, 2014, Seoul, Korea*
 3. Teraguchi M, Yoshimura N, Hashizume H, Muraki S, Yamada H, Oka H, Minamide A, Ishimoto Y, Nagata K, Kagotani R, Akune T, Yoshida M. Association between endplate signal change and Schmorl's nodes with disc degeneration in the lumbar region and low back pain in a population - based cohort in Japan: The Wakayama Spine Study. *International Society for the Study of*

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧

研究成果の刊行に関する一覧表
【H26. 4. 1～H27. 3. 31】

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
吉村典子	コホート研究からみた運動器障害		ロコモティブシンドローム	メディカルレビュー社			in press
吉村典子	骨粗鬆症の疫学	骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン作成委員会（代表折茂肇）	骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2015年版	ライフサイエンス出版			in press
吉村典子	運動器疾患の疫学	日本骨代謝学会	イラストで徹底理解する骨疾患キーワード事典	羊土社			in press
吉村典子	疫学		日本医師会雑誌特別号「ロコモティブシンドロームのすべて」	診断と治療社			in press
吉村典子	骨粗鬆症の疫学		リウマチ病学テキスト 改訂第2版	診断と治療社			in press
吉村典子、中村耕三	変形性関節症：総説 疫学		リウマチ病学テキスト 改訂第2版	診断と治療社			in press
吉村典子	骨粗鬆症と骨折の疫学～どのくらい患者がいるか？～	杉本利嗣	インフォームドコンセントのための図説シリーズ 骨粗鬆症 改訂3版	医薬ジャーナル社	大阪	2015	15-17
吉村典子	変形性膝関節症の疫学	千田益生	変形性膝関節症の運動療法ガイド-保存的治療から術後リハまで	日本医事新報社	東京	2014	24-30

藤原佐枝子	管理と治療ガイドラインの作成手順および治療介入基準	日本骨粗鬆症学会ステロイド性骨粗鬆症の管理と治療ガイドライン改訂委員会	ステロイド性骨粗鬆症の管理と治療ガイドライン 2014年改訂版	大阪大学出版社	大阪	2014	18-28
藤原佐枝子	骨折危険度の評価	杉本利嗣	インフォームドコンセントのための図解シリーズ骨粗鬆症	医薬ジャーナル社	東京	2014	26-27
大森豪	変形性膝関節症の診断－2. 画像所見	千田益生	変形性膝関節症の運動療法ガイド－保存的治療から術後リハまで	日本医事新報社	東京	2014	37-41
大森豪	変形性膝関節症の診断－3. 鑑別診断	千田益生	変形性膝関節症の運動療法ガイド－保存的治療から術後リハまで	日本医事新報社	東京	2014	42-48

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Yoshimura N, Muraki S, Oka H, Tanaka S, Kawaguchi H, Nakamura K, Akune T	Mutual associations among musculoskeletal diseases and metabolic syndrome components: A 3-year follow-up of the ROAD study.	Mod Rheumatology			in press
Muraki S, Akune T, En-yo Y, Yoshida M, Suzuki T, Yoshida H, Ishibashi H, Tokimura F, Yamamoto S, Tanaka S, Nakamura K, Kawaguchi H, Oka H, Yoshimura N	Joint space narrowing, body mass index, and knee pain: the ROAD study (OAC1839R1).	Osteoarthritis Cartilage			in press